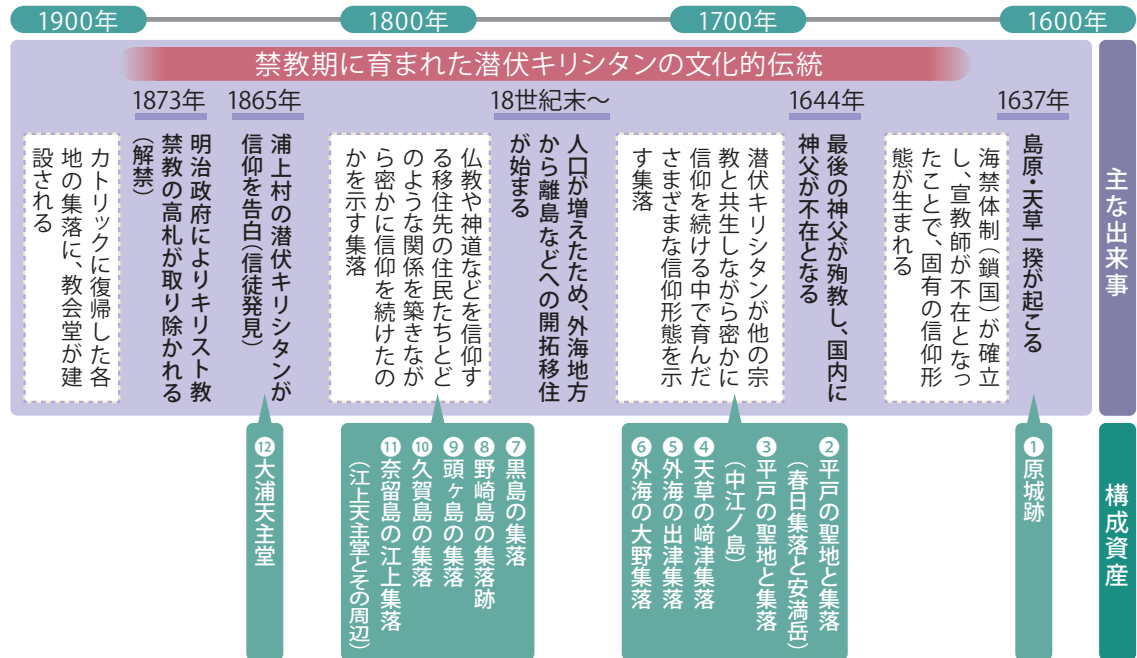


長崎と天草地方の潜伏キリシタンの歴史



12の構成資産を紹介します!



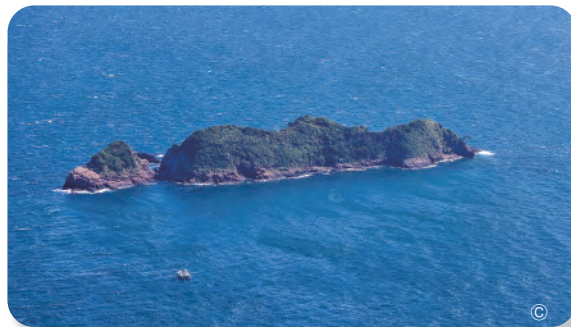
1 原城跡(南島原市)

禁教初期に島原と天草のキリシタンが蜂起した「島原・天草一揆」の舞台。この出来事により2世紀を越える海禁体制(鎖国)が確立され、残された潜伏キリシタンが密かに信仰を続けていく契機となった。



2 平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳)(平戸市)

安満岳から伸びる尾根と海に囲まれた集落。指導者の家で潜伏キリシタンの信仰の道具が伝承され、元来ある宗教の信仰の場であった山岳などを密かに崇めた。



3 平戸の聖地と集落(中江ノ島)(平戸市)

平戸島北西岸の沖合に位置する無人島。禁教初期に潜伏キリシタンが殉教地として密かに崇めた。岩からしみ出す聖水を採取する「お水取り」が行われた聖地でもある。



8 野崎島の集落跡(小値賀町)

神道の聖地であった野崎島へ移住した潜伏キリシタンは、表向きは神社の氏子を装うことで密かに信仰を続けた。[集落内の教会]旧野首教会

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は昨年の世界文化遺産登録を目指していましたが、国際記念物遺跡会議(イコモス)から「禁教期に焦点をあてて推薦内容を見直す必要がある」と指摘を受け、最短かつ確実な登録を実現するため、一旦ユネスコへの推薦を取り下げました。その後、イコモスの助言を受けながら推薦内容の見直しを行い、構成資産を14から12に見直し、名称も「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更しました。

新たな世界遺産としての価値は、「潜伏キリシタンが禁教期に密かに信仰を続け、既存の社会や宗教と共生しながら、独特の文化的伝統を育んだことを物語る貴重な証拠」であることです。そのため、構成資産のうち、「教会建築」としていたものは、密かに祈りをささげた場所や墓地などを含む「集落」としました。

今後は今年秋頃に行われるイコモスの現地調査を経て、来年の世界文化遺産登録を目指します。登録実現に向け、県民の皆さんのご支援・ご協力をお願いします。

二世紀を越えて
密かに継承された信仰の証



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

～「長崎のたからもの」を「世界のたからもの」に～

平成30年の世界文化遺産登録実現に向けて、県民の皆さんと一緒に取り組んでいきます。